



岡山大学記者クラブ 御中

令和3年12月16日

岡山大学

医療系オープンイノベーション・プログラム「BIZEN」が活動開始しました

◆発表のポイント

- ・12月1日より医療系オープンイノベーション・プログラム“BIZEN”が本格稼働しました。
- ・参加いただく企業や研究者の方々に、岡山大学病院での臨床現場におけるニーズ探索、大学が保有する様々なシーズや研究開発基盤を自社の開発に活用していただけるよう、産学連携にてイノベーション創出を目指します。

2021年12月1日、岡山大学鹿田キャンパスにある「鹿田会館」内にオープンイノベーション・ラボが竣工し、従来より進めていた研究開発支援を含めた医療系オープンイノベーション・プログラム“BIZEN“(Business Innovation Zone for Entrepreneurship)が本格稼働しました。

岡山大学病院を中心とした医療系の産学共創活動からイノベーション創出を連続的に生み出すエコシステムの整備を加速するとともに、大学の価値を社会へ還元し、大学の収益に転換する取組などをしていきます。

「BIZEN ラボ」は、鹿田キャンパス医学部正門に隣接する鹿田会館内に実験室3部屋、オフィススペース6部屋、会議室及び交流スペースを整備し、研究活動等の場として活用いただきます。

また、エキスパートがコーディネートする「BIZEN プログラム」では、参加いただいた企業研究者の方に、岡山大学病院での臨床現場におけるニーズ探索や、大学が保有する様々なシーズや研究開発基盤を自社の開発に活用していただけるよう、人材教育や商品開発・事業展開に繋がる実務支援を行います。

中国四国地方唯一の「臨床研究中核病院」「がんゲノム医療中核拠点病院」「橋渡し研究支援拠点」である岡山大学病院にて、「産」と「学」が同じ目線で学び、将来の様々な社会課題を解決できる人材を育て、革新的な製品の開発や新しい事業展開を実現し、岡山大学病院の持つ機能を広く社会へ還元し、人づくり、未来のまちづくりに向かって、医療の中心的役割にて責任を持って取り組んでまいります。

◆研究者からのひとこと

本プログラム統括・企業出身者として、病院内にある様々なニーズやシーズをオープンに利用出来れば、企業側の医療コア人材育成とイノベーション創出に対し大きな可能性があると感じました。

多様な方々にプログラムに参加いただき、多様な知見や考え方を融合し、医療の将来に貢献させていただきたいと思っています。



仙石喜也

シニアリサーチマネージャー



PRESS RELEASE

■発表内容

<稼働開始>

2021年12月1日、岡山大学鹿田会館内にオープンイノベーション・ラボが竣工し、従来より進めていた研究開発支援を含めた医療系オープンイノベーション・プログラム“BIZEN“（Business Innovation Zone for Entrepreneurship）が本格稼働しました。

岡山大学病院を中心とした医療系の産学共創活動からイノベーション創出を連続的に生み出すエコシステムの整備を加速するとともに、大学の価値を社会へ還元し、大学の収益に転換する取組などをしていきます。（図：事業コンセプト）

<内容>

「BIZEN ラボ」は、鹿田キャンパス医学部正門に隣接する鹿田会館内に実験室3部屋、オフィススペース6部屋、会議室及び交流スペースを整備し、産学共創と異分野融合によるイノベーション創出を図ることを目的とし、

- ・企業等における医療現場を研究フィールドとして、次世代医療技術の創出等を目指す産学共創・オープンイノベーション活動
 - ・企業等と大学が共同して行われるプロジェクト的研究活動
 - ・大型外部資金獲得における研究活動
- 等の場として活用いただくこととしています。

また、エキスパートがコーディネートする「BIZEN プログラム」では、参加いただいた企業研究者の方に実際の臨床現場でのニーズ探索や岡山大学病院が持つ様々なシーズをご利用いただき、人材教育や商品開発・事業展開に繋がる実務支援を行います。（図：プログラム）

プログラムとして多様な入口を用意し、大学および病院の持つ多様なインフラを多様な方々に活用いただき、多様な成果として人材およびイノベーションの創出を実現できるエコシステムを構築いたします。（図：イノベーションを継続する仕組み）

<社会的な意義>

中国四国地方唯一の「臨床研究中核病院」「がんゲノム医療中核拠点病院」「橋渡し研究支援拠点」である岡山大学病院にて産と学が同じ目線で学び、以下を実現させます。

- ・将来の様々な社会課題を解決できる人材の育成
- ・革新的な製品の開発や新しい事業展開

岡山大学病院の持つ機能を広く社会へ還元し、人づくり、未来のまちづくりに向かって、医療の中心的役割にて責任を持って取り組んでまいります。



PRESS RELEASE

■研究資金

本プログラムは、2020年度（令和2年度）に採択されました内閣府の「国立大学イノベーション創出環境強化事業」の柱の1つである「大学病院の持つ新たな価値としての診療外事業としての収益確保強化」により実施しました。

■補足

事業コンセプト

産学官が各々のメリットを持ち
それ故に継続的に医療イノベーションを創出し続けます

官 官庁 銀行/ファンド
・医療課題の解決推進
・地域経済の活性化

産 企業 起業家 (学生含む)
・OJTによるコア人材育成
・安価なインフラの活用
・学術と現場検証に裏打ちされた確実な事業化

学 岡山大学 連携大学
・医療現場ニーズの実現
・埋もれたシーズ(研究、人、モノ)の活性化

BIZEN Program
医療Innovationの実現

プログラム

人と技術を育て
医療に貢献するイノベーションを生み出す“場”です

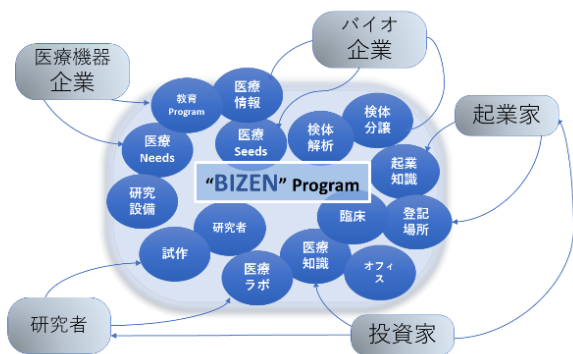
会員契約 165万円/年 (税込み)

情報提供 交流	Open Space 使用	支援プログラム ・無料コーディネート	Discount Voucher ▲50万円	共同研究	コンサルティング
---------	---------------	-----------------------	---------------------------	------	----------

- コア人材育成プログラム
 - ・現場での医療ニーズ・シーズ探索 (OJT)
 - ・医療知識 (倫理判断、申請プロセスなど)の教育
 - ・多様な情報交換による多角的考察力の蓄積
- 本格研究へのステップ
 - ・お試し研究ツール体験
 - ・計画立案支援
 - ・AROなどインフラ利用
- 学術知見
 - ・検証
 - ・エビデンス
- ビジネス支援
 - ・資金調達
 - ・企業マッチング
 - ・マーケティング

イノベーションを継続する仕組み

多様な入口から多様な活用により
多様なイノベーションを生み出します



鹿田会館



BIZEN ラボ内 通路



BIZEN ラボ内 会議室



BIZEN 会員用交流スペース



■BIZEN ロゴ



- 医療関連企業、バイオ企業、起業家、投資家、研究者等の横断的な視点から多様なイノベーションを生み出す様子
- 現場がオープンとなり、現場の意見が反映され、企業と一体となり継続的に新しい医療技術が開発される様子
- 産学官の連携によるオープンイノベーション・プログラムとして未来にはばたく様子
- デザイン思考を活用して探索したニーズを絞り込み、開発ターゲットを見出す様子
- 異業種、異分野が持つ技術やアイデア、サービス、ノウハウ、データ、知識などを多様性のあるフェローチームを編成して取り組む様子
- 中四国で唯一の橋渡し研究拠点（橋を渡す様子）をイメージ
- 現場のニーズ、ネットワークを大切にする観点から「N」をモチーフ
- カラーは岡山大学のシンボルカラーをベースに「叡智」や「良質さ」を表現
- また暖色のピンクや赤はプロジェクトに携わる人々の「情熱」や、多彩な色と表情を作り出し、炎の芸術と称される「備前焼」をイメージし、プロジェクト全般の「創造性」を表現

<お問い合わせ>

岡山大学病院 新医療研究開発センター
シニアリサーチマネージャー 仙石 喜也
(電話番号) 086-235-6979
(FAX) 086-235-7708



岡山大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。